



令和7年2月28日号

令和6年度 学校評価について

2月25日に学校運営協議会を開催し、学校評価や来年度の学校運営協議会の活動、CS サポーターの活動について、協議をしました。学校評価については、12月に実施した生徒・保護者アンケート結果や学校の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示し、それについて各委員の皆さんからご意見をいただきとりまとめました。

項目	自己評価	学校等関係者評価
成果 (強み)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からは「自分や友だちを大切にしている」が98.6%、「仲間外れやいじめをしなかった」が96.4%、「身の危険に対して対応の仕方がわかっている」が99.1%の回答であった。保護者からも「命を大切にし、自分や相手を大切に作る気持ちが育っている」が95.5%、「楽しく学校生活を送っている」が97.3%となった。自分や友だちを大切にし、楽しい学校生活が送れているようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「進んで読書をしている」については、司書とも連携して子どもたちが読みたい本や教育的に読ませたい本を多く準備するなど環境整備を進めるとともに、本に親しむ体験や啓発にも取り組む必要がある。 ○学校へ来ても教室には入れない児童への対応として、コネクトサポーターが配置され、これまで、保健室が主に別室対応を担ってきたが、専属として対応できる仕組みが作られつつあり、教室復帰できた児童もいた。
課題 (弱み)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からは「進んで読書している」が46.9%、「家庭では、注意することより褒めることが多い」が57.6%と達成度が低い。それ以外にもあいさつや家庭学習における回答が低くなった。児童からは「授業で自分の意見を発表することができた」が72.9%、「先生たちとよく話をする」が75.1%と他と比べて低い回答率である。さらにあいさつや家庭での学校の話や学習が低い回答になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○CS の活動として、登下校の見守り、読み聞かせ、技能教科・校外学習・体験学習等の学習支援などのサポーターの募集をし、活動の拡大を図ってきた。保護者（PTA）や地域との協働について、学校運営協議会の委員だけでなく、嬉野中川まちづくり協議会の役員や民生児童委員の方々と熟議をすることで、活動を充実することができた。今後、学校だけでなく、まちづくり協議会の機関誌も活用しながら、CS の活動内容やCS サポーターの募集を地域にもひろげていきたい。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や生活の中で、思いやりの心や自他を大切に作る心を育てる教育をさらに充実させていく。 ・授業改善や指導方法の工夫を通してさらなる学力向上を図る。 ・あいさつを推奨していくとともに、地域や家庭と連携した取組を進める。 ・家庭学習と読書の習慣化に向け、家庭と連携して取り組み、学力の向上につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症やインフルエンザなどの対策や会場や駐車場の関係で、規制が必要となり、以前のような活動や学校行事などができない場面もあった。しかし、工夫をしながら保護者・地域の協力を得たりすることで、学校運営を行うことができた。

授業の充実	<p>①「授業はよく分かる」児童 91.7%（昨年度 93.2%）であった。しかし、保護者 87.4%（昨年度 88.0%）であった。</p> <p>②全国学力・学習状況調査の平均正答率は 68.3%、教科別では、国語 72.1%、算数 64.4%となり、算数に課題が残る。</p> <p>③家庭学習の定着は、児童 86.0%（昨年度 83.2%）、保護者 69.2%（昨年度 75.0%）であった。学習の手引きや情報端末の効果的な活用など、家庭と連携した取組が必要である。</p>	<p>○91.7%の児童が「授業が分かる」と回答しているが、分からないと回答する児童が 8.3%いることを意識して、授業改善、指導方法の工夫にとりこんでいく必要がある。</p> <p>○読書については、低学年のCSサポーターによる読み聞かせ、中学年のビブリオバトル、本の紹介、POP コンテスト等を読書の時間を活用してきた。今後も家庭と連携した取組が必要である。</p> <p>○今年度は、教科担任制を5年生にも拡大して実施したが、実施教科等の検討が必要である。</p> <p>○学年が上がるにつけて、思いやりが育っているように思う。</p> <p>○「楽しく学校生活を送っている」では 97.3%の児童が肯定的な回答をしているが、2.7%の児童が楽しいと思えない事にも注目する必要がある。</p> <p>○縦割り班による活動も再開し、活動の充実に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>○学校・学年等のたよりやホームページ等で、子どもたちの活動の様子を知ることができた。また、CS の活動やサポーターの募集については、まちづくり協議会の機関誌も活用して、地域全体に、啓発していく。</p> <p>○学校行事や授業公開等において、会場や駐車場等の関係で、規制が必要な場合もある。</p> <p>○自尊感情を高めるために褒める姿勢を大切にしながら低学年のときから子どもたちと関わっていききたい。地域全体で声掛けをしながら、取組んでいくことが必要である。</p>
なかまづくり	<p>①保護者からは「思いやりの心を育てている」94.2%（昨年度 94.0%）、「楽しく学校生活を送っている」97.3%（昨年度 96.9%）であった。児童からは「なかまはずれやいじめをしない」96.4%（昨年度 94.6%）、「自分や友だちを大切にしている」98.6%（昨年度 97.1%）であった。</p> <p>②学級満足度尺度の平均が 1 回目 62.5%（昨年度 56.2%）、2 回目 70.8%（昨年度 66.4%）となった。最大値 91%、最小値 47%、44%の差となった。</p> <p>③レインボー班活動は、定期的を実施することができた。児童は、「レインボー班の活動は楽しい」と 87.6%（昨年度 84.3%）が回答している。</p>	<p>○「楽しく学校生活を送っている」では 97.3%の児童が肯定的な回答をしているが、2.7%の児童が楽しいと思えない事にも注目する必要がある。</p> <p>○縦割り班による活動も再開し、活動の充実に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>○学校・学年等のたよりやホームページ等で、子どもたちの活動の様子を知ることができた。また、CS の活動やサポーターの募集については、まちづくり協議会の機関誌も活用して、地域全体に、啓発していく。</p> <p>○学校行事や授業公開等において、会場や駐車場等の関係で、規制が必要な場合もある。</p> <p>○自尊感情を高めるために褒める姿勢を大切にしながら低学年のときから子どもたちと関わっていききたい。地域全体で声掛けをしながら、取組んでいくことが必要である。</p>
開かれた学校づくりの推進	<p>①「積極的に情報を提供している」は 88.8%（昨年度 90.9%）であるが、ホームページの総訪問者数が 13 万人を突破した。</p> <p>②4 回の授業参観等が実施できた。「学校は保護者や地域に、開放的な雰囲気」が保護者 86.2%（昨年度 89.7%）となった。今後も、子どもたちの頑張る姿を発信していきたい。</p>	<p>○学校行事や授業公開等において、会場や駐車場等の関係で、規制が必要な場合もある。</p> <p>○自尊感情を高めるために褒める姿勢を大切にしながら低学年のときから子どもたちと関わっていききたい。地域全体で声掛けをしながら、取組んでいくことが必要である。</p>
あいさつ運動の展開	<p>①「自分から進んで挨拶をしている」は児童 82.6%（昨年度 80.3%）、保護者 61.9%（昨年度 72.9%）と保護者の回答が目標を下回った。</p> <p>②校内でのあいさつはしっかりできるようになってきたが、校外や家庭でのあいさつができてないと考えられる。</p>	<p>○自尊感情を高めるために褒める姿勢を大切にしながら低学年のときから子どもたちと関わっていききたい。地域全体で声掛けをしながら、取組んでいくことが必要である。</p>